



霧が丘

横浜市立義務教育学校
霧が丘学園
令和6年9月20日発行

「 充実の秋 ～探究することを楽しもう～ 」

准校長 岡崎 恵子

「准校長先生、おはようございます。秋を見つけました。」朝、小学部の校門を開けると、低学年の子どもたちが、笑顔で両手いっぱいのだんぐりを見せてくれました。「たくさん拾ったから、学校でみんなに見せたいの。」「公園で拾ったの。」「まだ緑色だけど、これから茶色くなるんだよ。」

わたしにとって開門の時間は、一人ひとりの子どもたちの表情を見ながら、あいさつや会話がができる幸せな時間です。

ある日、「准校長先生、栗を見つけました。」ひときわ輝く笑顔で見せてくれた2年生がいました。様々な学年の子どもたちが集まって来て、「栗に似てるけど、なんか栗じゃない感じがする。」「栗だったらもっと頭がとがっているよ。」「拾ったところにイガイガが落ちていなかったでしょ。」子どもたちが自分たちの経験と比べながらその実について意見を交わし出しました。そこで、私が「准校長先生が知っている栗とはちょっと違う気がするな、新しい栗かな。」「気になるなあ。」と伝えると、2年生は「調べてみます。」と元気よく教室に向かいました。



その日の昼休み、「トントントン」と校長室をノックする音が聞こえました。そこには2年生二人が立っていました。「准校長先生、何の実かが分かりました。」目をきらきらさせて、持ってきた端末の画像をわたしに見せてくれました。「これです。」「栗より丸くて、下の部分がハートみたいで、イガイガはないけど包まれている皮も同じです。」…「栃の実(とちのみ)」と書いてありました。

「すごいね。突き止めたね。准校長先生も勉強になったよ。ありがとう。」校長室でわたしに説明するうちに、「栃の実は栗のように食べられるのかな」と次の疑問がわいてきた2年生は、その場で端末にキーワードを入れ、さらに調べていました。

自分が「疑問だな」「不思議だな」と思ったことに対して、経験を基に予想し、本当がどうか調べる。…子どもの日常の中にも探究したくなることがあることに改めて気付かされました。図書資料や端末など自分で調べる方法を選んで突き止める姿、友達と協力して確認し合う姿、そして、ともに疑問をもったわたしに教えに来てくれた姿に、うれしくなりました。子どもはこうやって自分の世界を広げていく素晴らしい力をもっているのだと改めて感じました。

霧が丘学園の皆さん、「読書の秋」「スポーツの秋」等、「〇〇の秋」に、一人ひとり、自分に合った言葉を入れてみてください。小学部では「きりっこ運動会」に向けた取組、中学部では「あすなろ」に向けた取組も始まっています。さあ、自分が探究したいことに向かって取り組み、充実の秋を過ごしてください。

